

Minuma Shun Sai 見沼・旬彩

2024年秋号 vol.30

稲穂の稔り

新加田屋田んぼでの
体験田植

子供たちが作る
案山子

県ホームページ等に応募した方を対象に「田植・草取り・草刈り・稲刈り」までの米作り体験を1999年から提供しています。併せて案山子作りや生きもの調べも行っています。

秋のごはん 旬を味わう

何でも有りの世の中で、人工栽培できないひとつつの松茸を新米に炊き込み、味わいましょう。

松茸の汚れと、固い石づきを取り、適度な縦方向に裂く。2合～3合炊きの水加減は、いつもと同じ。昆布茶を出汁代わりに酒大さじ3・醤油大さじ3を混ぜていつものように炊飯をします。80年前、子供のころは裏山で採れたものだと夫が言う!冥土の土産にいただきます。

国際自然保護連合は、絶滅の恐れがある動物や植物をまとめた『レッドリスト』に松茸が「絶滅危惧種」に指定。



JJAさいたま木崎ぐるめ米ランド

JJAさいたまが展開する直売所は12店舗(さいたま市内は5店舗)の一つ木崎ぐるめ米ランドをお訪ねしました。

平成24年7月にオープン、売り場面積330m²・駐車場58台とJJAさいたま最大規模を誇っています。

同店のある浦和区領家は、さいたま市の郊外に立地し、近くを通る第二産業道路には、大型スーパー や ホームセンター、家電大型店などが出店する、所謂郊外型商業集積地を抱える中、地元農家の新鮮な農産物・花や鉢物など豊富な品ぞろえ、また店内には加工所があり、地元産のお米を使用した「ぐるめ米団子」「お赤飯」や「まんじゅう」なども、お客様から多くの支持を得ております。

写真撮影をした8月11日(日)にはお盆の入りを控え、開店30分以上前から仏花を求めお客様が店頭に列をなしておりました。

浦和区領家4-24-16 TEL.048-834-2890

営業時間:10:00 ~ 17:00

定休日:第2・第4木曜日・年末年始

ちょんまげ起業家が作る 見沼の発酵ジンジャーエール

地元見沼でアジア初のジンジャービア(発酵ジンジャーエール)を醸造販売する株式会社しょうがのむし代表が周東孝一さんです。周東さんが発酵ジンジャーエール作りに夢中になったきっかけは奥さんの生まれ故郷台湾の実家で目にした大量の生姜、そして地元見沼での休耕地問題でした。「見沼の生姜を使ってジンジャービアを作れば農地活用になるのでは」との想いでした。

生姜をはじめ原材料は地元生産者に直接訪問して仕入れ、使用するワイン粕等もアップサイクルして活用しています。販売取扱店も増えてきており、生樽で提供する店もあるとのこと。市内でも、まるまるひがしにほん(大宮東口)や3store(新都心)、飲食店ではビアナヴァ浦和(浦和東口)、萬店(中浦和東口)等で販売しています。

ノンアルなにお酒のような風味が味わえる発酵ジンジャーエールはお酒を飲めない人にも、或いはカクテルにしても美味しい飲み物です。まるでお



▲愛称は安心館シャキシャキ



▲タンクが並ぶ醸造所



▲生姜を抱える周東さん



▲ちょんまげ姿の周東さん

酒のような発酵の味わい、豊かな風味に驚きます。一度試してみては。

見沼区大谷1262-3 TEL.050-5579-4606

MINUMA EVENT INFORMATION

さいたま市農業祭

2024年11月16日(土)・17日(日) 9:00~15:00 ※雨天決行

市民の森 見沼・グリーンセンター(北区見沼)

さいたま市の秋の大収穫祭として、市内の農業生産者、市民・消費者の交流の場、また地産地消の推進を目的に2日間、開催されます。

さいたま市内の農業者による野菜・果物・花き・植木・農産物加工品の直売や餅つきなどのイベント、友好都市の特産品直売、多彩な出店及びショーなどがあり大人から子供まで家族連れで楽しめるイベントです。特に、生産者が自慢の農産物を披露する共進会(農産物品評会)は、600~700点の農産物が展示・販売され、受賞した農産物は人気の的となっています。さいたま市内の農業関係のイベントでは、最大規模のお祭りです。(入場者数は過去の実績で約11万人です。)



見沼たんぽ・二つの秋のイベント

9月21日(土) 10:00~15:00

さいたま新都心 けやき広場1階プラザ

新鮮な地元野菜・お米などの直売、写真展、見沼たんぽの紙芝居、コマづくり、市民活動のご紹介、見沼たんぽのツアーのご案内。さいたま新都心駅からデッキで徒歩3分。

11月2日(土)、3日(日) 10:00~15:00

さぎ山記念公園と記念館

クイズラリー、フワフワ遊具、新鮮な地元野菜・お米などの直売、写真展、見沼たんぽの紙芝居、自然素材での工作体験、市民活動のご紹介など。

バス:大宮駅前⑦乗り場・浦和学院高行
さぎ山記念公園下車

車:「見沼自然公園」に駐車場200台

主催:見沼さぎ山交流ひろば(14の会員団体と多數のセンター団体)

事務局:さいたま市見沼田園政策推進課 問合せ:TEL.048-829-1413



見沼たんぽ 自転車散歩

秋の気配が漂う今日この頃、見沼たんぽを自転車で巡るには良い季節になりました。スタートは国指定史跡の見沼通船堀東縁。そこから見沼代用水東縁沿いに、川口自然公園、大崎公園へと進みます。果樹園脇の道を走り、新見沼大橋有料道路をくぐり、国昌寺へ寄り道。江戸時代中期建築の山門（市指定有形文化財）の欄間に左甚五郎作と伝わる、りっぱな龍の彫り物があります。この辺りは龍神伝説があるミステリースポットです。

さらに北上して斜面林の緑のトラスト保全第1号地沿いの石畳の道をゆっくり進みます。歩行者も多いので安全走行です。この辺りでお腹も空いてきたので、



見沼・鷺神社・竜頭の舞祀り

平安時代末期の「後3年の役」に起源があると伝えられる祀り
秋の見沼を散策、国昌寺、緑のトラスト1号地、見沼自然公園

2024年10月13日(日) 11:00集合(少雨
決行・荒天時中止)

集合場所:浦和駅東口・駅前広場

コース:11:00 浦和駅11:16⇒バス停バイパス大崎→12:00国昌寺(昼食)→緑のトラスト1号地→総持院→12:50鷺神社の竜頭の舞の祀りに参加13:50→見沼自然公園(解散)14:20→バス停・締切橋 14:56⇒大宮駅 15:30前後

参加費:一人400円(資料代等・別途バス代570円)

歩行距離:約6km 歩行時間:約2時間

用意するもの:昼食、おやつ、飲み物、雨具、筆記具

申込み締切り:2024年10月10日(木)(定員:先着25名)

藤井が美味しい「バンブー」で今日は手作りパンを購入。そこから細い道を通り、深井家長屋門（市指定有形文化財）を見学。1844年建立の貴重な棟札が伝えられています。

その後、近くの見沼自然公園で先ほど購入した手作りパンで腹ごしらえをしてさらに北上します。膝子交差点から東楽園通りを東へ進み、創業140年の造り酒屋「大滝酒造」で地酒を購入。

そこから七里総合公園で折り返し、見沼代用水西縁を目指します。途中の染谷地区には天然温泉の「小春日和」や野菜の直売所など、寄り所も豊富です。そして見沼たんぽの真ん中を横切りゴールの氷川女體神社に到着。約20kmをのんびり走りました。

見沼たんぽは、自然あり、歴史ありといろいろ楽しめる自転車散歩にぴったりのエリアです。春の桜並木も楽しみです。

「LAファーム」頼 明さん

昨年、新規就農した頼 明さん。さいたま市立病院近くの芝川沿いにある畑で妻の由美さんの助けを借りながら、四季折々の野菜を育てています。おふたりとも元々仕事をお持ちで、それを続けながら農作業をこなしています。

最初は偶然自宅近くにできた市民農園から始まった野菜作り。その楽しさに魅せられて市や県の農業コースで学ぶうちに、農業者として今は3反の畑を耕作しています。明さんは大学の教員なので、会社勤めと比べると多少時間の余裕はあります



▲頼さんご夫妻

が、平日に畑で作業する時間はほとんどありません。だから作業は週末に集中的に行います。そのため、栽培する

野菜は葉物野菜以外のナスやトマト、インゲンなどの実になる野菜類と、ニンジンやダイコン、イモ等の根菜類を育てています。

また、農薬は使わず木酢液などを活用し、肥料は有機肥料だけを使用、除草や土壌消毒などに夏の太陽熱を利用するなど、できるだけ自然に負荷をかけない方法で栽培しています。

8月の朝に訪ねた畑では、おふたりが収穫や草刈り作業の真っ最中。容赦ない夏の日差しの下では今が盛りのナス、オクラ、キュウリ、インゲンなどと並んで、秋に収穫を迎えるサトイモやラッカセイなどがすくすくと育っていました。

頼さんの野菜を販売している所

- ・カインズ浦和美園店:緑区美園1-11-1
- ・ラガーデン川口 地産マルシェ:川口市宮町18-9
- ・大崎公園マルシェ

お問い合わせ:lafarm77@gmail.com

「再生紙」を作成していたものと推察されます。

見沼自然の家は、多様な自然環境に囲まれています。

現在、川口市に委託された二つの市民団体が見沼の自然観察や農業体験活動などの拠点として利用・管理しています。自然の家は、屋敷林や草原、水田、水路に囲まれ、多様な自然環境と触れ合うことができます。

このため、日曜・祝日は、埼玉県生態系保護協会川口支部の方々が、見沼たんぽに残る自然環境の観察会・勉強会などを行っています。

當時は、グラウンドワーク川口のメンバーが、母屋や庭や納屋そして屋敷林の手入れをしながら、昔からの暮らしぶりを行事として残す活動を行なっており、憩いの場や学習の場として利活用しています。



▲自然の家入り口



▲頼さんの畠



▲ホタルやメダカもいる用水路

生物多様性を中心としたグラウンドワーク川口の活動

「自然環境教育」を中心にした多彩な活動展開

川口市北部の見沼たんぽは、多くの野生生物が生息している貴重な野生生物の宝庫です。このため、①野生の生物が生息できる湿地的環境の保全、②稻作を中心とした農的なくらしの環



▲岩崎事務局長さん

境体験、③貴重な植物の保護を目的とした植物園・原っぱづくり、④子どもたちなど多くの人々の体験の場、⑤みぬま自然学校(鳥の教室、昆虫の教室、植物の教室、小動物の教室、自然遊びの教室、ものつくりの教室、歴史の教室、稻作の教室など)を展開。

「ホタルの保全活動」から始まりました。

1998年、川口市北部の見沼たんぽに生息するホタ



ルを守ろうと、川口市・市民団体・地元企業が自然保護団体「グラウンドワーク川口実行委員会」を結成。以来27年、見沼たんぼで最大の「管理活動面積」。

埼玉県からの管理委託地が5.45ha。川口市からの管理委託施設の「見沼自然の家」と周辺の土地が1ha程度で、合計約6.5ha。この面積は、見沼の市民団体の中では最大です。

MINUMA
New Face/

「青と緑の農場」農園 代表 吉岡章子さん



▲吉岡章子さん



▲里芋畑

青と緑の農場! 吉岡さんは新規就農4年目の有機野菜農家です。

川口市生まれ川口市育ちです。風の谷農場、こばと農園、浅子ファームの三軒の農家で栽培、販売、実際の農場運営を研修し2020年に新規就農しました。農業を始めたきっかけはテレビで放送されていた家庭菜園番組を観て「なんとなくわたしもやってみた~い」と家庭菜

園を始めたことです。その時育てた野菜ができなかった。大根を植えたのにちいさなラディッシュみたいなものが採れ…「こりやあ誰かに教わらにやならん!」と思い、近くの美容師さんの紹介で行ったのは風の谷農場です。感じたことは土の香り、草の香りの心地よさです。19歳からひきこもりになっていた吉岡さんは、それは大きな刺激となりました。風の谷の三宅さんの人がらに救われ、対話を通して、家族とも相談し「自立したい」そんな想いを抱え農を起業しました。現在約3反3つの畑の経営者です。春はレタス、たまねぎ。夏はナス。秋は里芋と季節の野菜を一年間、四季を通して育てています。すきな野菜はトマトです。販売はイオンモール北戸田店わくわく広場、カインズ浦和美園店の2カ所です。さいたま有機都市計画の元気印として「青と緑」はほのぼの営業中です。

野菜のふしぎ・神秘と一緒に将来へ跳んでいきます。 <https://aomidori773.wixsite.com/aomidori>

大宮盆栽村開村100周年記念 盆栽文化ツアー
2024年9月23日(祝月)・10月16日(水)

大宮盆栽村開村100周年記念に合わせ、盆栽ツアーオを開催します。大宮盆栽村の歴史、盆栽の生い立ち、盆栽文化の種類と流れ、盆栽の鑑賞の見所、世界盆栽大会、著名人の盆栽の説明を盆栽園の見学とあわせ行います。

集合:大宮公園駅前広場 9:30

解散:盆栽美術館 12:30

参加費:一人300円(資料代等 別途:盆栽美術館観覧料310円)

コース:大宮公園駅(9:30集合・出発)→芙蓉園→かえで通り→漫画会館(日本近代風刺漫画の祖である北沢栄次郎の晩年の邸宅)→盆栽生みの親の碑(植竹稻荷神社)→盆栽四季の家(氷川神社宮司東角井家の旧



持ち物:筆記用具、折りたたみ傘、水筒など。その他:小雨決行(傷害保険に加入していません。必要であれば各自、ご加入ください。)

申込先:黒澤兵太メール:kurosawa@peach.ocn.ne.jp
FAX.048-687-5543 TEL.080-1038-6712

見沼たんぽ地域ガイドクラブ

<http://www.minuma-guide-club.com/>



高速道路(核都市広域幹線道路)計画をSTOP! ツアー

11月24日(日) 9:30 集合:浦和美園駅 改札口前 解散:16:00 浦和駅西口



コース:浦和美園駅を出発、浦和インターナーを見てから、埼玉スタジアムを経て追加インター想定地の高畑陸橋付近を視察します。高速道路の通過想定地のファームインさき山(柿渋の里)の風景を見て、見沼自然公園で計画STOP! 学習会&昼食の後に、高速道路で分断される見沼自

然公園や片柳地区および総鎮守の熊野神社などの秋の風景を見て、南台バス停から浦和駅に向かいます。(少雨決行)

歩行距離:約10km 参加費:一人500円

持ち物:昼食・帽子・飲み物・雨具

申込先:北原典夫

メール:minuma.farm.kitasaku@ever.ocn.ne.jp
FAX.048-834-5731 TEL.090-2675-1684

見沼たんぽ地域ガイドクラブ

<http://www.minuma-guide-club.com/>



芝川の河川整備の進捗状況と今後の問題点

進む「芝川」の河川整備

2024年5月にさいたま県土整備事務所を訪問。

1.「ボトルネック橋梁」等の改修工事

①東武野田線の芝川橋梁については整備工事が完了
②旧16号にかかる境橋については、現在、「仮橋」をかけて工事中で、3年後ほどでの完成予定。

③463国道の念仏橋については、「仮橋」建設に向けて、準備中。完成予定は未定。

④芝川第一調節池の右岸池については、5~6年後ほどでの完成予定。

2.河川改修が進むと河川水が下流に一気に流れれる

3.異常気象による「雨量の増加」は不可避

4.見沼たんぽの「畑作化」にともない「埋立」が進行

5.見沼たんぽの「遊水機能の大幅減少」が進行

6.2019年9月の台風19号の際に、芝川の増水にともない川口市に「緊急避難指示」が出されました。第一調節池の右岸池も「湛水」していましたが。

7.早急に「三番目の調節池計画」の策定と建設推進が必要と思うがどうかと質問。

8.芝川担当グループとして、「返答」がありませんでした。
(文責:北原典夫)

今号に掲載された、見沼たんぽ地域のお米・野菜・果物・花木 直売所等マップ



市民が応援する見沼たんぽ地域の人と環境にやさしい都市農業の広報誌
「見沼・旬彩」2024年秋号 vol.30

発行：未来遺産・見沼たんぽプロジェクト推進委員会

<http://minuma-miraiisan.jp> e-mail : minuma@minuma-miraiisan.jp

バックナンバーはホームページよりご覧になれます。

編集：見沼農業・応援連携部会／デザイン・印刷：有限会社アームズ
発行日：2024年9月10日

We
Love
Minuma



この見沼農業の応援連携・季刊誌「見沼・旬彩」は、公益財団法人 サイサン環境保全基金様、公益信託 武蔵野銀行みどりの基金様、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟様からの助成金で印刷・発行しております。